



アサヒ通運株式会社

環境経営レポート

2023年度版

対象期間 2023年 1月～12月
発行日 2024年 4月 1日



環境経営方針

■ 企業理念

創造の物流で社会に貢献

■ 基本理念

アサヒ通運株式会社は、省エネルギーの担い手として地球環境保全に貢献し、安全で快適な生活環境を提供する事業所として環境との調和並びに社会への共生を最優先課題に事業活動を展開する。

■ 行動指針

資源循環型社会の実現に貢献するため環境経営活動計画を作成し、エコアクション21活動を継続するとともに、環境との共生を目指した環境保全に取り組む。

- 1) 当事業所の事業活動にかかわる環境関連の法規及びその他の要求事項を遵守する。
- 2) 事業活動に伴う大気汚染などを予防する。
- 3) リサイクルを推進し及び廃棄物の発生を抑止し、資源の有効活用を図る。
- 4) 省エネルギーを推進し、地球温暖化の防止に努める。
- 5) 安全活動と5S活動の推進により、品質と生産性の向上を図る。
- 6) グリーン購入を継続的に推進していく。
- 7) この環境経営方針を確実に達成するために、当事業所の全従業員に周知する。
- 8) 環境経営方針は社外に一般の求めにより開示する。
- 9) 環境に配慮しつつ、2024年問題の労働問題や対策に取り組む。



®環境省

エコアクション21

認証番号 0000867

制定日 2005年 4月1日

改訂日 2011年11月1日

改訂日 2018年 4月1日

改訂日 2023年 4月1日

アサヒ通運株式会社

代表取締役社長 筒井 義文



事業概要

■ 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者名

アサヒ通運株式会社

代表取締役 筒井 義文

2) 所在地

本 社:佐賀県鳥栖市江島町 1677-1

アサヒSDセンター:佐賀県鳥栖市轟木町1620番地1

大阪(営):大阪府東大阪市高井田西 6-3-22

東京(営):神奈川県相模原市南区麻溝台 2-2-8

千代田事業所:佐賀県神埼市千代田町柳島 225-1

コクヨサプライロジスティクス内事業所:佐賀県三養基郡基山町長野字立野 251-15

3) 責任者及び担当者/連絡先

環境管理責任者 アサヒ通運総務部 総務・経理係

環境管理担当者 アサヒSDセンター統括事業所センター長

☎TEL 0942-87-8511

☎FAX 0942-87-8515

✉E-Mail m.ogasahara@asahi-tsuun.jp

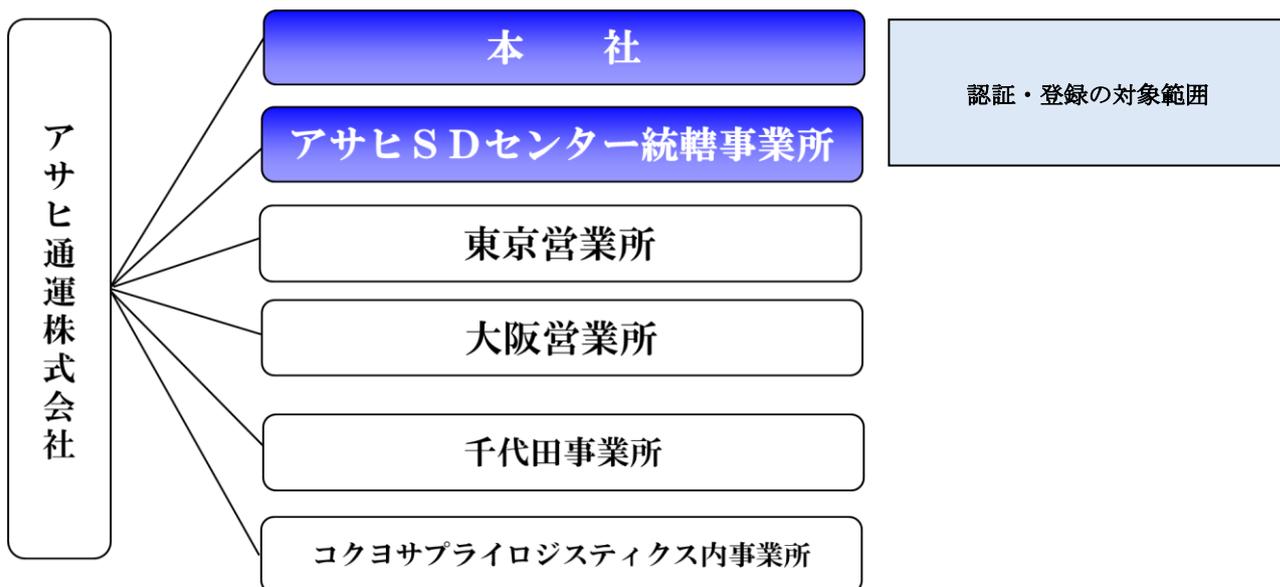
4) 事業活動

運輸業(4t及び10tトラックにて関東、関西及び九州一円に向けてタイヤ、住宅部材並びにアルコール溶剤などを配送)

倉庫業(大手住宅メーカーの部材仕分け、並びに一般貨物の保管管理)



5) 組織図



6) 事業の活動規模

本 社 ・ アサヒSDセンター

活動規模	単 位	2020年	2021年	2022年	2023年
売上高 (本社・アサヒSDセンター)	万円	113,611	127,238	124,366	118,106
輸送売上 (本社)	万円	41,313	41,313	43,015	39,165
作業売上 (アサヒSDセンター)	万円	4,730	3,290	3,322	3,106
車両台数	台	47	45	45	45
従業員	人	66	61	59	54
床面積	m ²	7,854	7,854	7,854	7,854

7) エコアクション21取組の経緯

2005年4月1日 ; アサヒSDセンターEA21取組開始

2005年7月～2006年7月1日 ; 同EA21システム試行運用

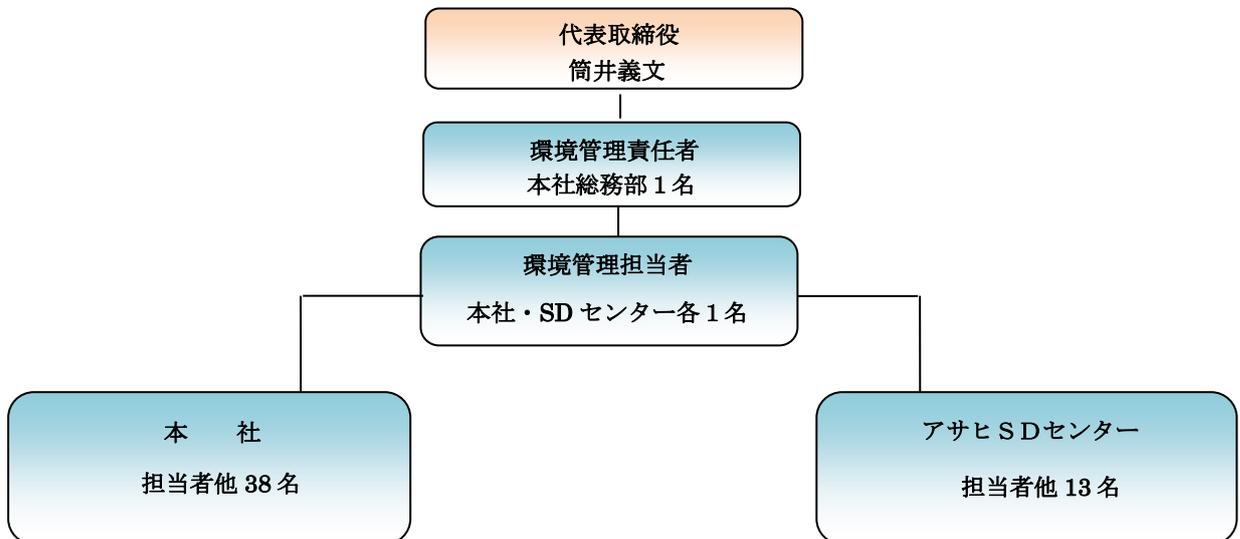
2006年7月10日 ; 同EA21認証・登録

2006年7月10日 ; 同EA21システム本格運用

2016年7月10日 ; 同EA21活動10年継続

2021年4月1日 ; 本社にてEA21取組開始

8) エコアクション21運営組織





環境経営目標とその実績

■ 環境経営目標

環境負荷削減項目	環境負荷項目		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
				実績値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量の削減	購入電力(原単位値)※1	本社 アサヒSDセンター	kWh/千円	0.28	0.28	0.274	0.27
	軽油(原単位値)※2	本社	ℓ/千円	1.50	1.48	1.45	1.42
廃棄物排出量の削減 リサイクル率の向上	ダンボール(原単位値)※3	アサヒSDセンター	Kg/千円	0.30	0.28	0.28	0.27
	オリエンテーブ(原単位値)※3	アサヒSDセンター	10g/千円	0.028	0.028	0.026	0.025
	廃タイヤリサイクル率	本社	%	100	100	100	100
	コピー用紙再生紙・裏紙使用率	アサヒSDセンター	%	100	100	100	100
	ストレッチフィルムリサイクル率	アサヒSDセンター	%	100	100	100	100
	その他ビニールリサイクル率	アサヒSDセンター	%	100	100	100	100
グリーン購入	グリーン・エコマーク購入率	アサヒSDセンター	購入件数 %	259件 49.4%	50.0%	50.0%	50.0%
	自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	デジタルタコグラフによるエコドライブ推進徹底率	本社	%	100	100	100
地域環境保全活動	不具合作業ロス削減	アサヒSDセンター	件	18	14	14	14
	不具合・事故件数	アサヒSDセンター	件	18	14	14	14
改善活動推進	安全・効率化改善	本社 アサヒSDセンター	年2回 件/年	年1回 36	年2回 36	年2回 36	年2回 36

※総排水量削減については、事業所内での手洗い・事務所利用程の量のため除外します。

※化学物質使用量削減については、当社での取り扱いがないため除外します。

※原単位値は、作業売上・輸送売上比に準じてくる為、作業売上・輸送売上を用いての算出。

※1 原単位値＝購入量÷売上高 ⇒ 購入電力

※2 原単位値＝使用量÷輸送売上 ⇒ 軽油

※3 原単位値＝排出量÷作業売上 ⇒ 段ボール・オリエンテーブ

■ 環境経営実績①

環境負荷削減項目	環境負荷項目		単位	2023年	2023年	達成率	評価
				目標値	実績値		
二酸化炭素排出量の削減	購入電力(原単位値)※1	本社 アサヒSDセンター	kWh/千円	0.28	0.39	71%	△
	軽油(原単位値)※2	本社	ℓ/千円	1.48	1.71	86.5%	△
廃棄物排出量の削減 リサイクル率の向上	ダンボール(原単位値)※3	アサヒSDセンター	Kg/千円	0.28	0.21	133%	○
	オリエンテーブ(原単位値)※3	アサヒSDセンター	10g/千円	0.028	0.039	71.8%	△
	廃タイヤリサイクル率	本社	%	100	100	100%	○
	コピー用紙(総量)リサイクル率	アサヒSDセンター	%	100	100	100%	○
	ストレッチフィルム(総量)リサイクル率	アサヒSDセンター	%	100	100	100%	○
	その他ビニール(総量)リサイクル率	アサヒSDセンター	%	100	100	100%	○
	PPバンド(総量)リサイクル率	アサヒSDセンター	%	100	100	100%	○
グリーン購入	グリーン・エコマーク購入率	アサヒSDセンター	購入件数 %	50%	45/62 72.5%	145%	○
自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	デジタルタコグラフによるエコドライブ推進徹底率	本社	%	100	100	100%	○
	不具合作業ロス削減 不具合・事故件数	アサヒSDセンター	件/年	18	11	163%	○
地域への環境保全活動	鳥栖市美化活動参加率	本社 アサヒSDセンター	年2回 %	年2回 100	年1回 50%	50%	×
改善活動推進	安全・作業効率化による改善件数	アサヒSDセンター	件/年	36	39	108%	○

※総排水量削減については、事業所内での手洗い・事務所利用程の量のため除外します。

※化学物質使用量削減については、当社での取り扱いがないため除外します。

※原単位値は、作業売上・輸送売上比に準じてくる為、作業売上・輸送売上を用いての算出。

※1 原単位値 = 購入量 ÷ 売上高(422,717(千円)) ⇒ 購入電力

※2 原単位値 = 排出量 ÷ 輸送売上(391,657(千円)) ⇒ 軽油

※3 原単位値 = 排出量 ÷ 作業売上(31,060(千円)) ⇒ 段ボール・オリエンテーブ

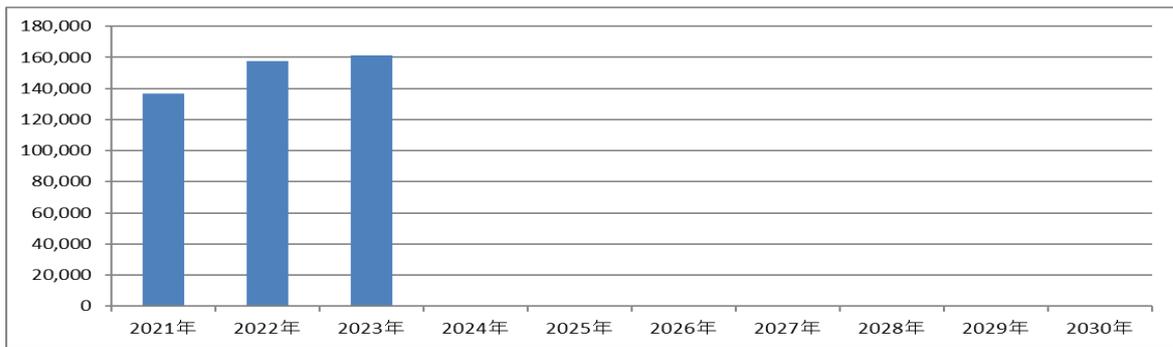
※評価: ○ = 100% △ = 70%以上 × = 70%未満

■ 環境経営実績②

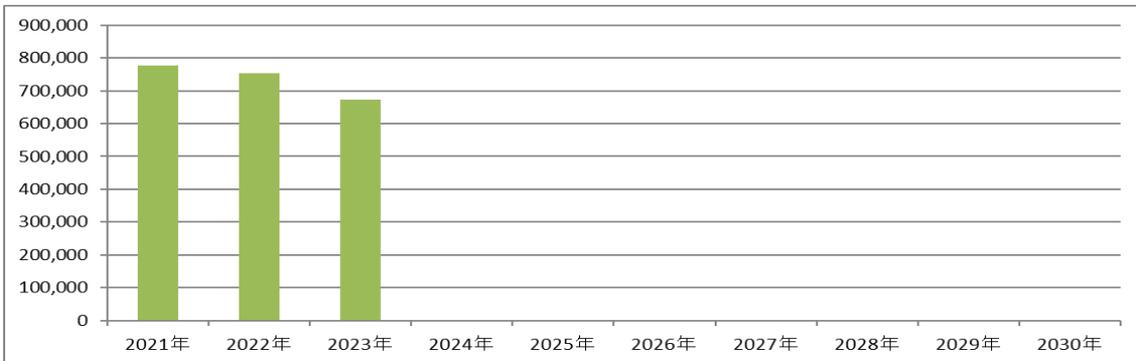
項 目	単 位	2021年	2022年	2023年	
総エネルギー投入量	購入電力	kWh	136,447	157,384	161,081
	軽油	ℓ	776,511	753,154	672,859.29
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	2,068,753 ※	2,018,524 ※	1,830,215 ※

※【特記事項】CO₂ 排出係数⇒0.479（2020年度九州電力調整後排出係数）

購入電力年度別推移



軽油年度別推移



■ 2023年の環境経営目標とその実績内容

2021年から、本社及びアサヒSDセンターで共通フォーマットによる環境経営活動の取組みデータを記録し、今後の環境経営目標設定のB/Mとして活用していく。

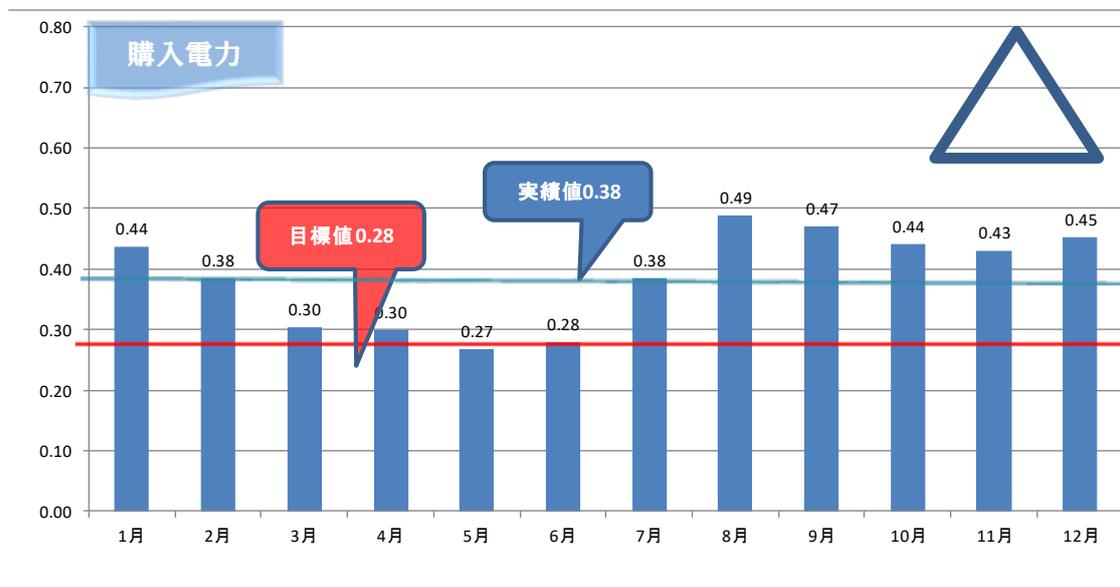
倉庫業務に関わる月別の作業売上高における原単位値について、新型コロナウイルス部類が5類に引き下げられたが、昨年行われた原単位目標値設定の見直しを継続。

本社ではドライバーの長距離、地場ともに退職があり、運行減少となったが、燃料の高騰は引き続き目標達成には厳しい状況にある。

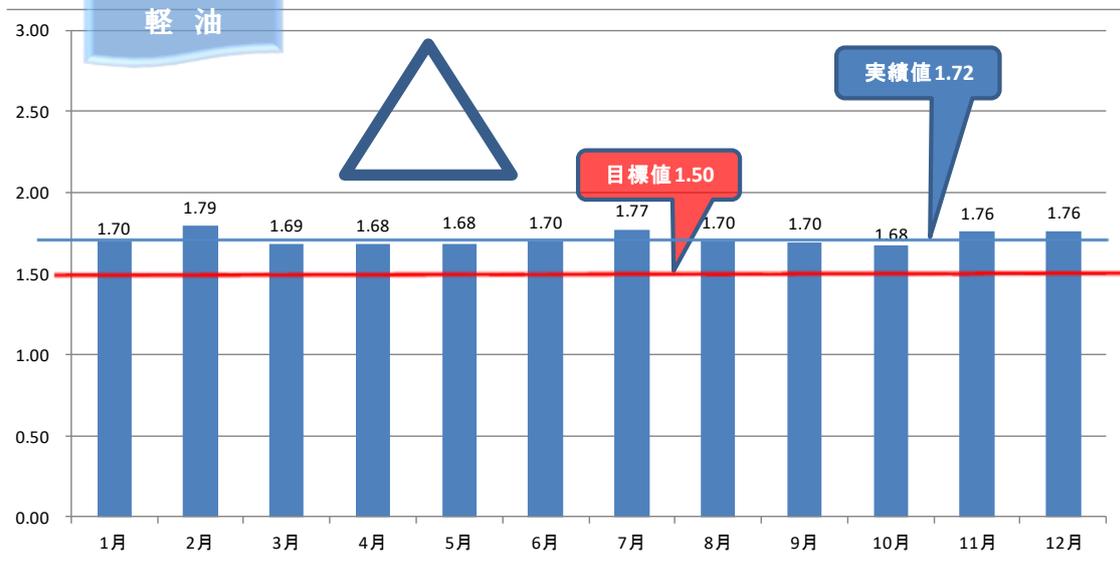
SDセンターにおける売上の回復は鈍い傾向の上、近年の夏期の猛暑に屋外と同等の環境の中で従業員の作業環境を整える事を優先し、数値への追及はやむ得ない状況である。

コピー用紙・ストレッチフィルム・その他ビニール・PPバンドについては、当社での削減管理不可の為、100%リサイクル達成を目標に掲げ活動していく。

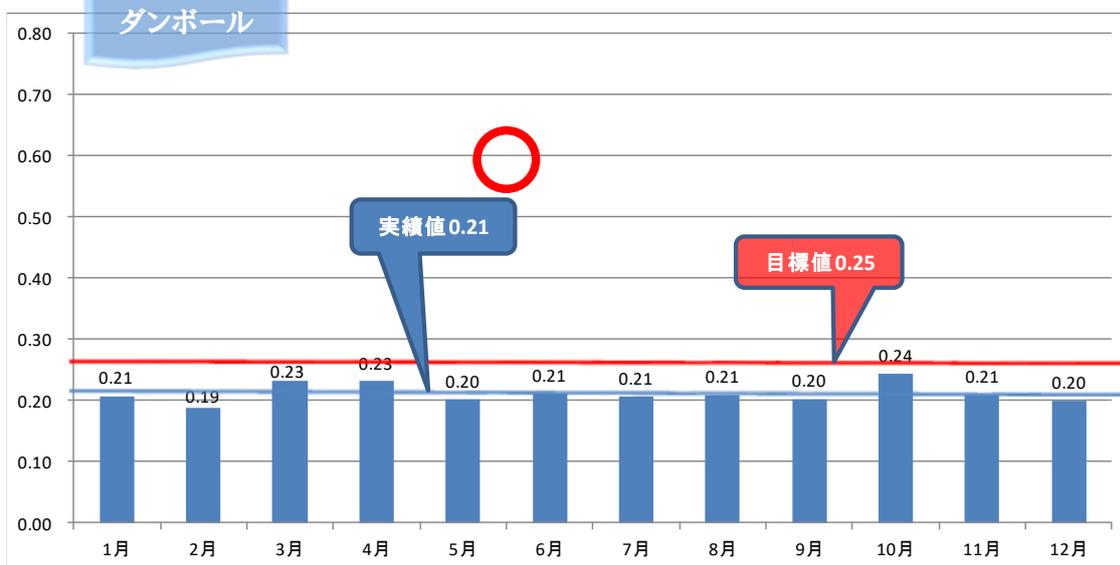
内容	2023年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
売上高(単位:千円)	35,677	36,298	43,891	37,670	36,022	38,190	34,834	33,336	33,595	31,705	30,321	31,178	422,717
購入電力(kwh)	15,618	13,934	13,340	11,246	9,646	10,665	13,380	16,295	15,816	13,968	13,069	14,104	161,081
原単位値	0.44	0.38	0.30	0.30	0.27	0.28	0.38	0.49	0.47	0.44	0.43	0.45	0.38



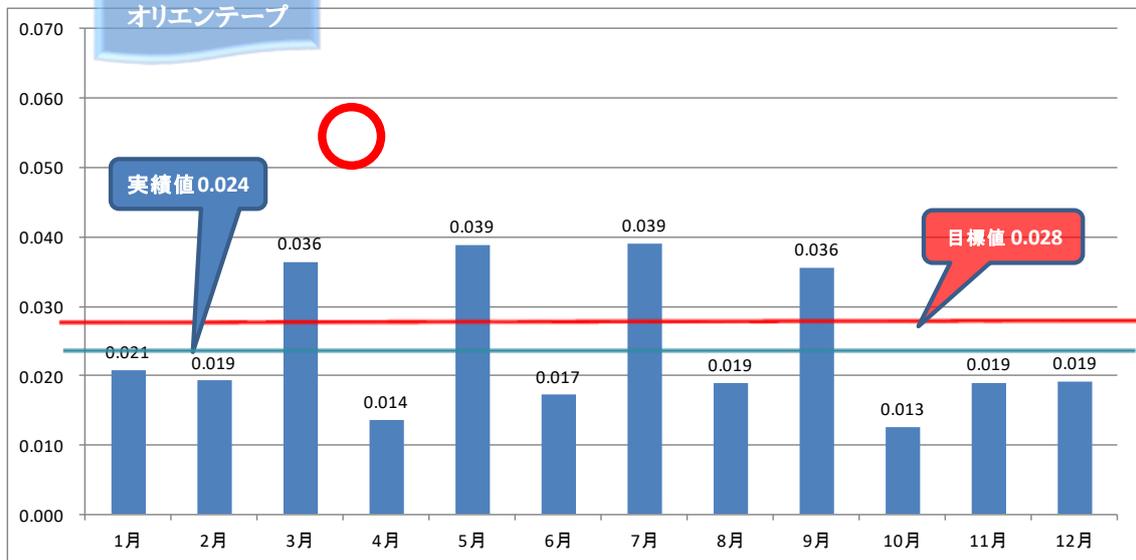
内容	年月	2023年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
輸送売上高 (単位: 千円)		33,265	33,704	41,141	35,465	33,447	35,293	32,269	30,700	30,785	29,316	27,695	28,577	391,657
軽油 (ℓ)		56,617	60,418	69,395	59,673	56,156	60,054	57,230	52,841	52,204	49,153	48,738	50,379	672,859
原単位値		1.70	1.79	1.69	1.68	1.68	1.70	1.77	1.72	1.70	1.68	1.76	1.76	1.72



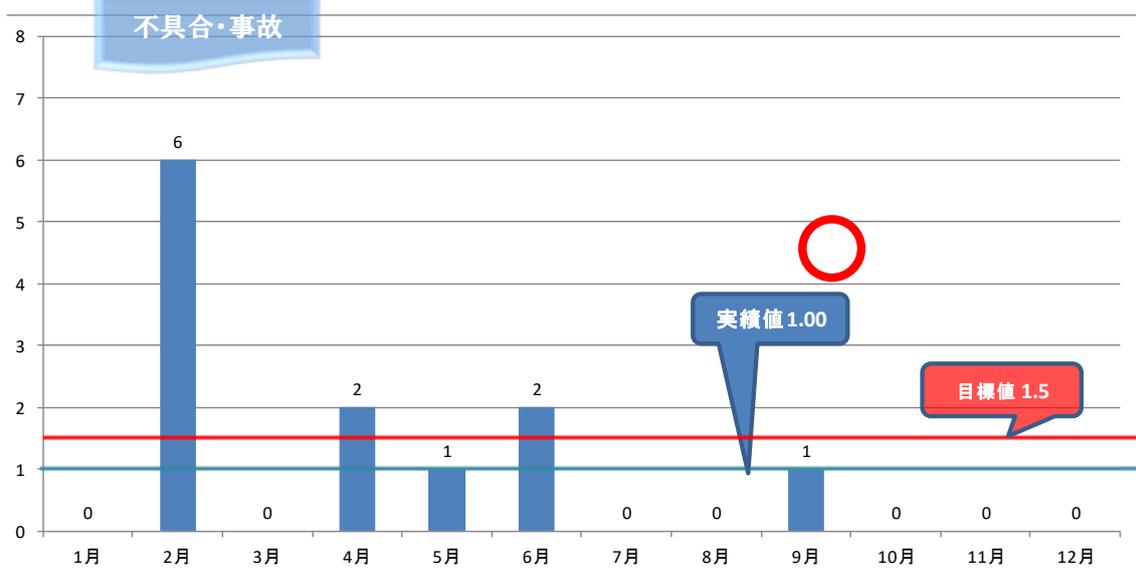
内容	年月	2023年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
作業売上高 (単位: 千円)		2,412	2,594	2,750	2,205	2,575	2,897	2,565	2,636	2,810	2,389	2,626	2,601	31,060
ダンボール (kg)		500	490	640	510	520	610	530	550	570	580	550	520	6,570
原単位値		0.21	0.19	0.23	0.23	0.20	0.21	0.21	0.21	0.20	0.24	0.21	0.20	0.21



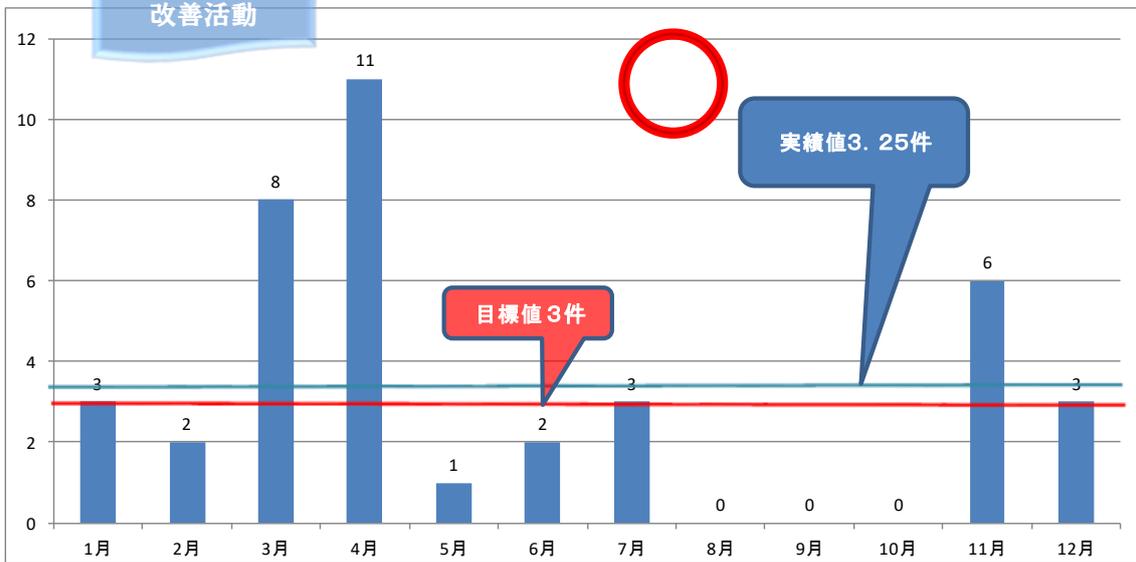
内容	年月	2023年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
作業売上高 (単位: 千円)		2,412	2,594	2,750	2,205	2,575	2,897	2,565	2,636	2,810	2,389	2,626	2,601	31,060
オリエンテープ (10g)		50	50	100	30	100	50	100	50	100	30	50	50	760
原 単 位 値		0.021	0.019	0.036	0.014	0.039	0.017	0.039	0.019	0.036	0.013	0.019	0.019	0.024



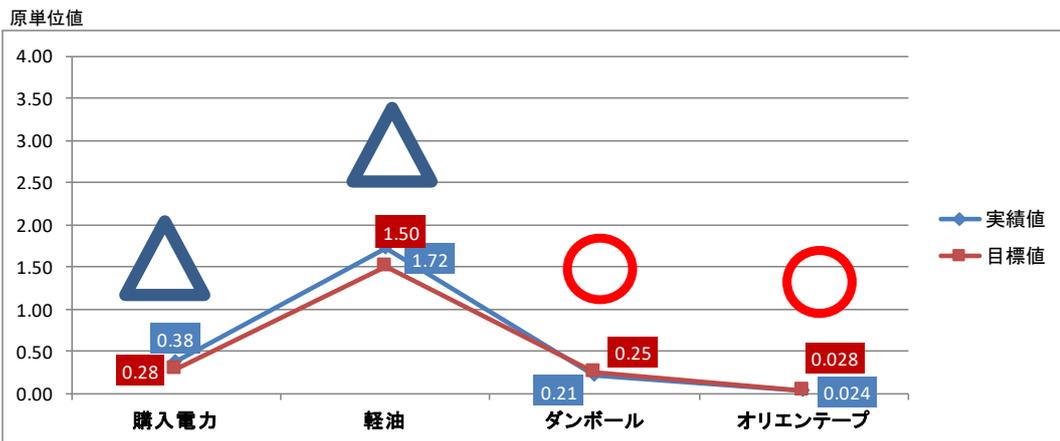
内容	年月	2023年												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
作業売上高 (単位: 千円)		2,412	2,594	2,750	2,205	2,575	2,897	2,565	2,636	2,810	2,389	2,626	2,601	31,060
不具合・事故件数		0	6	0	2	1	2	0	0	1	0	0	0	12
目 標 件 数		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	18

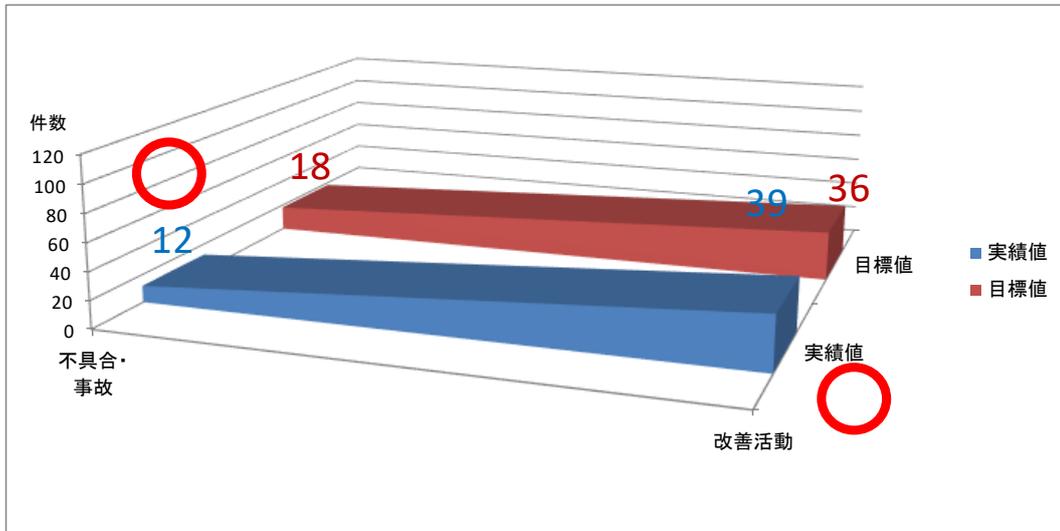


内容	2023年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
作業売上高(単位:千円)	2,412	2,594	2,750	2,205	2,575	2,897	2,565	2,636	2,810	2,389	2,626	2,601	31,060
改善活動実施件数	3	2	8	11	1	2	3	0	0	0	6	3	39
目標件数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36



2023年 項目別目標値に対する実績値表





■ 上記内容の取りまとめ

- 購入電力による二酸化炭素排出量原単位値は目標値 0.28 に対して、0.39 (+39.3%) となった。△
- 軽油使用による二酸化炭素排出量原単位値は目標値 1.50 に対して、1.71 (+14.0%) となった。△
- ダンボールによる廃棄物排出量は目標値 0.25 に対して、0.21 (-16%) となった。○
- オリエンテーブによる廃棄物排出量は目標値 0.028 に対して、0.039 (+39.3%) となった。○
- 不具合・事故発生件数は目標値 1.5 件/月に対して、0.92 件/月 (-39%) となった。○
- 安全・作業効率化による改善件数は目標値 3.00 件/月に対して、3.25 件/月 (+8.3%) となった。○

本年度の目標設定値は減少売上ベースの原単位値を採用したもので、今後の目標決めに於いても基準値の動向に準じた正確な対比算出が必要となってくる。



環境経営活動の取組と評価

■ 取組と評価

環境活動の取組計画	評価
<p>購入電力【二酸化炭素排出量の削減】</p> <p>SDセンターと本社の購入電力を合算した 2021 年度に算出したデータをベンチマークとし、1 年間で約 2%、5 年間で約 10% 削減できるよう、日々の省エネを意識づける。</p> <p>施策の継続として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未使用時の消灯を徹底する。 ・未使用事務用機器のスイッチOFFの徹底。 ・昼礼時、各作業者の作業進捗確認と業務応受援段取りの推進により残業時間を最小に留める。 	<p>消費電力量については、省エネ意識が定着し原単位値は減少傾向にあったが、夏期の想定外エアコン使用増加等の電気使用料増加につながってしまった。</p> <p>可能な限り適正な空調温度・湿度管理行い、必要最小限度での電力使用に努めたい。</p> <p>また、後期は人員異動も伴い少人数による残業時間も増え冬期の照明使用時間も増え思うような使用料を抑えることができなかった。</p> <p>架台や商品の配置転換で光量を増やしたり屋内に外気を取り込む、寒暖差のある日にエアコンのこまめな調整を</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫内照明を水銀灯からLED照明に変更する。 ・はたらかき方改革推進による残業時間削減 ⇒電力消費時間の短縮に繋げ、CO²削減 ・適正な空調温度設定(管理責任者設定) (冷房 28 度、暖房 19 度、加湿器で湿度管理) ・部材棚レイアウト変更による、既存設備照明での作業場明るさアップ 	<p>行うなど、地道な工夫や新しいアイデアを採用し、二酸化炭素排出軽減を努めたい。</p>
<p>軽油【二酸化炭素排出量の削減】</p> <p>2021 年の二酸化炭素排出量データを基に、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原油高騰とも相まって、デジタルタコグラフを活用したエコ運転の指導を行うとともに、アイドリングストップキャンペーンを遂行する。 ・月に一度はアイドリング時間の啓示を行い、各ドライバーに意識づけを行う。 ・リフト点検整備を徹底する。 ・エンジンリフトから電気リフトへ切り替え、化石燃料使用を削減する。 ・リフト運搬作業の無駄削減(①空走行削減の段取り ②使用回数削減の段取り) ・倉庫移動に伴うリフト動線の安全スムーズな通路の確保と高効率レイアウト変更を行う。 ・トラックへの積込み作業に合わせた出荷準備完了品置場の近接化推進。(作業場入替検討) ・安全衛生委員会によるパトロールや産業医パトロール指摘項目即時是正(すぐやる活動)での環境取組活動推進。 	<p>2024年問題の対応により、労働時間、運転時間を削減が行われている。</p> <p>荷主側の理解もあり、高速道路の使用や積込人員の増員や時間指定等、荷待ち時間や走行時間の減少がおこなわれている。</p> <p>よってアイドリング時間や走行時間が減少し軽油消費の少ない状況に繋がっている。</p> <p>後半残念ながらドライバーの退職が続き不動状態のトラックが出てしまい、燃料消費と共に売上も減少してしまった。</p> <p>デジタコ日報による運転履歴によって急加速や急ブレーキなど燃料消費の多い危険者には輸送部にて適時指導が行われている。</p> <p>倉庫業務においては、常に安全作業念頭に 5S+1S(すぐやる)の定着によってアイテム位置の把握や無駄のない動線確保、作業環境の整備が図られている。</p> <p>それでも日々作業効率向上、安全な作業遂行の為、改善活動数も目標を達成する結果となっている。</p>
<p>【廃棄物排出量の削減及びリサイクル率の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃タイヤのリサイクル化 100%実施。 ・A4 用紙の裏紙を100%再利用する。 ・プリンタートナー及びカートリッジの100%再生品使用。 ・制服のカーボンオフセット品の購入・配布。 ・輸送通い箱を最大限に利用する。 ・通い箱の数量管理(在庫を切らさない) ・分別ボックスで確実に分別をする。 ・最適納入架台の改善を提案していく。 ・メーカー様に省梱包入庫を継続的に提案していく。 ・メーカー様へ返却可能な梱包材の定期的返却を遵守する。 	<p>目標7項目につき、意識的に取り組んだ結果、目標を達成することが出来た。</p> <p>廃タイヤは、すべて産廃業者委託の基、100%リサイクルし、管理表示と管理記録が保管出来ている。</p> <p>コピー用紙の削減については、例年同様に裏紙利用を柱とした取り組みが継続できている。事務所員のみならず現場担当者も含め全員で裏紙再利用貢献活動をしている。(P14 写真参照)</p> <p>分別ボックスでの確実な分別は本年も遵守出来ている。</p> <p>お取引様や部材メーカー様と新規部材梱包や輸送形態の打ち合わせを行い、省梱包輸送を継続中である。</p>



	梱包材の再利用も緩衝材として、又新しい梱包方法を改善活用出来ていた。
<p>【グリーン購入】</p> <p>・事務用品・消耗品などグリーン購入法適用商品・エコマーク商品の購入率を調査すると同時に比率アップを積極的に推進する。</p>	<p>購入商品の選別として左記対象商品を優先的に購入するようにしており、購入アイテムの7割を超える結果となっている。必要不可欠商品の購入に対しては適用外商品購入もやむを得ない場合がある。</p>
<p>【不具合作業ロス削減】</p> <p>・不具合・事故による周知共有化と再発防止策を即実施する。(発生原因の深掘り、なぜ・なぜ・なぜ)</p>	<p>年間目標件数としては目標達成。</p> <p>前期に不具合・事故の多発により緊急事態宣言が発令される事態となり手順の遵守、確認の徹底にて再発防止につながる。</p>
<p>【社員の環境教育】</p> <p>・新入社員に対して、エコアクション21の教育を行う。</p> <p>・新入社員に対して、社内環境状況を把握させる。</p> <p>・社員に対して環境保全に関する情報を周知する。</p> <p>・法改正時は、全社員へ周知する。</p> <p>・環境セミナー等へ積極的に参加する。</p>	<p>2023年は、新人教育・訓練ができませんでした。</p> <p>EA活動の責任者の役割、職務内容を明確にしこれまでの活動を環境活動の取り組み、進捗などを周知することが出来、今後に向けた共有活動の意識向上に充分つながった。</p> <p>外部入場者(納入業者)にも環境活動の取り組みについて理解と協力をお願いし、水平展開を行った。</p>
<p>【地域の環境保全運動】</p> <p>・環境保全活動に参加する。(ゴミ拾い・植樹活動等)</p> <p>・オイル漏れ吸着マットと中和剤を配備する。</p>	<p>鳥栖市環境保全活動は本年は1度参加した。コロナ終息により、積極的に環境保全活動に参加する。</p> <p>本社月、木曜日ゴミ捨て日にて社屋周辺の歩道の清掃活動を行い環境美化に貢献した。</p>
<p>【安全・作業効率化による改善】</p> <p>・作業工数削減・統合・分割・高効率化を目指した改善を実行する。</p> <p>・改善表彰導入による、モチベーションアップ(改善推進効果による時間短縮)</p>	<p>職場環境の安全確保、作業効率を高める活動として改善活動が幅広く活発に実施出来ている。</p> <p>常に安全面、生産性の向上を所員の意識づけされている。</p> <p>各メーカー様との商談・デリバリー作業については、メールでほぼ完結させる体制にシフト出来ており、ペーパーレスに繋げていける。</p>
<p>【次年度へ向けての変更】</p> <p>2023年実績データを2024年の目標指数に用いる。</p>	<p>新体制での活動を構築しEA活動をより確実に継続していく。</p> <p>本社・アサヒSDセンター共有の3か年活動計画をさくていする。</p>



倉庫内LED化



オイル漏れ対策



裏紙回収ボックス



環境関連法規への違反、訴訟等の有無

■ 環境関連法規への違反

当社に適用となる環境関連法規(消防法・廃棄物の処理及び清掃に関する法律・フロン排出抑制法)についてチェックした結果、違反はありませんでした。

■ 訴訟等の有無

関係機関などからの法規制違反の指摘、環境問題にかかわる苦情、事故、及び、訴訟などの請求はありませんでした。

総括及び今後の環境経営目標

■ 目標値設定の内容

購入電力は、2022年の売上減額分の適正原単位値を割り出した為、そこに基準を置き2024年の生産高ベースを踏まえた目標設定での削減活動を行っていく。組織的、各個人による省エネルギーの意識を高めて継続し、毎年の目標を達成し、2022年をベンチマークに5年間を目途に約10%の削減を図る。

軽油については、運送業という性質上、売上と消費量が正比例するくらいにあるが、2024年問題を踏まえた労働時間の削減と運送内容の見直し、引き続きデジタルタコグラフを活用した無駄な加速低減、アイドリングストップの励行、エコドライブを推進し、ドライバーへの周知・情報の提供を行う。得意先、荷主様への作業時短の依頼やフェリー輸送の活用等輸送管理部においても積極的に燃料消費削減に努める。

倉庫業務に於いては、売上減と効率化改善による作業短縮で、軽油使用量削減が直接結びつい

て行く為、3か年計画の目標値を継続達成出来るように各活動を継続していく。

ダンボール・オリエンテープについても効率化を図り、3か年目標数値を継続し、目標値として今後も目標達成出来るよう取り組み活動を実施していく。

廃棄物排出量の削減及びリサイクル率については、タイヤリサイクルはこれまで通り100%リサイクル業者へ廃棄処理を依頼し、段ボールについても同様100%の持ち込みを行う。コピー用紙、ストレッチフィルム、その他ビニールは、当社自助努力による活動に限界がある為、今期も100%リサイクルを目標と定めて活動を行う。

グリーン購入については、購入する商品内容を見直し、購入者及び使用者の意識を向上させ、3か年目標達成を確実に目指していく。

5Sの定着化及び安全活動における不具合・事故削減については、削減ありきの3か年計画に基づく目標設定とし、基本事項の遵守徹底と改善事項の発案と定着を継続する。

地域への環境保全活動は、今後も地域開催があれば環境活動に積極的に参加していく。

自らが生産・販売・提供する製品及びサービスにおいては、デジタルタコグラフによるエコドライブ推進の徹底、倉庫業務に於いても、改善提案型スタイルを継続して実行し、全体の数値削減へ寄与出来るよう、3か年計画目標達成を目指し活動していく。

■ 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

日 時	2024年 4月 1日 (10時00分 ~ 12時00分)	
場 所	アサヒ通運本社 社長室	
参 加 者	筒井 義文、佐藤公一(計 2人)	
提 出 書 類	①環境経営マニュアル ②環境経営関連文書の作成・整理 ・関連文書 16項目 ・関連資料	
評 価	環境系システムが有効に機能しているか	環境系システムは有効に機能している。 ・環境管理責任者の実務不在期間が出来てしまった反省点と、作業売上高に対して外部的要因である電力エネルギー、原油価格の急騰で反比例してしまった点は意外であったが、活動そのものは定着化、標準化が構築されていた。
	環境への取組は適切に実施されているか	・環境への取り組みは適切に実施している。 時事的に数々の物流の高騰、資材不足、エネルギー資源要因での燃料の高騰重ねて顕在される人手不足と「働き方改革」、限りある社

		員数と資源、定められた時間の中で「ヒト・モノ・カネ」を基本に各々疑問を持ち知恵と知識を結集して方向性を明確にし確認重視で安全安心なあるべき姿の職場環境創り(ホワイト物流・健康経営宣言企業・モーダルシフトの活用等)を有効的かつ効率的に取り組んだ。
変更の必要性と指示	環境経営方針	<p>環境経営方針の変更なし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理者の業務を改めて明確にし、共通認識を保ちながら各活動を遂行できる体制を再構築する。 ・新規新入社員がある場合は、入社時に環境への取り組みを知らせると共に、さまざまな意見を幅広く取り入れること。また、通年で定期的な見直しを行い、常に新しい気持ちで取り組むこと。 ・更なる資源・エネルギー・燃料の有限化で観えてくるであろう課題の上で我々の活動が試される時代となり個々からチーム、チームから全社員一丸となって環境対策の目標管理を設定しミスや失敗からヒントを得て挑戦する「目標」の心構えで取り組んで行く。
	環境経営目標 環境経営計画	<p>環境経営目標・計画の変更なし。</p> <p>【環境目標】</p> <p>短期・中期・長期(3カ年)の目標値を常に意識して取り組み、現状との齟齬の把握、守れるルール手順とすることが必要である。日々動向を見極め、報告・連絡・相談を軸に全員で 2024 年目標値を目指すこと。昨今の猛暑(熱中症対策)・室内換気対策により、購入電力目標値に於いては中期計画の鈍化は已む無しとする。</p> <p>2024年問題を見据えた労働時間、荷待ち時間の削減を基にした取り組みを追加する。</p> <p>【環境活動計画】</p> <p>各計画に変更なし。</p> <p>環境活動を取組むに当たり、環境活動関連項目等を十分に見直し、数値化した目標とするものと削減不可な項目についての活動とを区分けして表記し、意欲が持てる計画を立てていく必要がある。尚且つ、全員が環境経営の意識のもと理解力を深め、取り組んで行けるように経営と比例した展開をすること。</p>
	環境経営システム	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの変更の必要なし。 ・全社員で日々の環境への取組意識を高く持つこと。 ・日々ミーティング等により、お互いを注意し見直すこと。 ・環境目標原単位値を、従来通りチェックして怠らないこと。 ・環境負荷を減らす為の計画力、実行力を推進していくこと。
	実施体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・審査対象の拡大に伴い、環境管理責任者佐藤公一に変更する。